

派遣報告書

平成27年4月30日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 段塚 廣文 印

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1	派遣期間	平成27年4月16日(木)から平成27年4月18日(土)まで	
2	派遣先	(1) 東京都千代田区	4/16(木) 15:30~16:30
		(2) 石川県金沢市	4/17(金) 13:30~17:00
		(3) 石川県白山市	4/18(土) 10:00~12:00

3	視察(調査)議員名	段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、藤井 隆弘	

4	面会者	(1) 国務大臣 地方創生・国家戦略特別区域担当 内閣府副大臣	石破 茂氏 赤沢 亮正氏
		(2) 金沢市市民局市民協働推進課担当課長補佐 学校法人金城学園副理事長 学校法人金城学園遊学館高等学校校長 学校法人金城学園遊学館高等学校事務室長 同上 生徒指導部長	柿本 紀希氏 加藤 博氏 竹田 剛氏 松本 雅夫氏 嶋田 司氏
		(3) 学校法人金城学園理事長 学校法人金城学園金城大学副学長 学校法人金城学園金城大学事務局次長	加藤 真一氏 加納 宏志氏 久野 光広氏

5	派遣目的	(1) 千代田区「要望活動(内閣府)」について (2) 石川県金沢市「学生のまち・金沢の推進」「円形校舎跡の活用」について (3) 石川県白山市「金城学園創設者と倉吉とのつながり」について	

6	視察の経過及び感想	別紙 会派くらよしアイズ・倉吉自民「行政視察報告書」参照	

7	添付書類	(1) 面会者名刺一覧 ----- (2) 視察先提供資料 -----	

要した経費： 合計 円

会派くらしよアイズ・倉吉自民共同「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成27/4/16(木)～18(土)
議 員 段塚 廣文、福谷 直美、丸田 克孝、
藤井 隆弘

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 千代田区 4/16(木) 15:30～16:30

「要望活動(内閣府)」について

内閣府に到着。鳥取県選出の衆議院議員、国務大臣 地方創生・国家戦略特別区域担当 石破茂氏に要望活動を行った。今回の要望内容は次の2点であった。

1. 地方創生先行型交付金の配分について

本市をはじめ地方の人口減少が続く中、働く場の確保、特に企業誘致が大きな役割を果たす。中部1市4町で構成する定住自立圏の中心として企業誘致の成否は、本市のみならず周辺町にも大きな影響を及ぼす。企業誘致にかかる市負担はこれまで約8億円、今年度は5.5億円となる。移住・定住者に対し魅力ある企業の誘致として、事業所等の新・増設を行う企業に対し助成することを上乘せ分の対象事業として認定していただき、配分に際して配慮をお願いしたい。

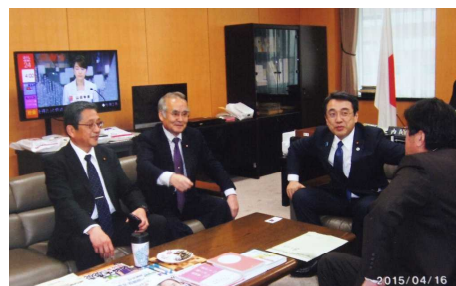
2. 中心市街地再興戦略事業費補助金等の予算総額の拡大について

本市では、現在、中心市街地活性化基本計画を策定し、平成27年6月の内閣府による認定をめざし、手続きを行っている。この事業の果たす役割は、本市の地方創生に関わって大きな位置づけとなる。この事業の中では、公共事業以上に民間活力による事業が実現するような支援制度が必須となる。この面での支援制度は、経済産業省の中心市街地再興戦略事業費補助金等が設置されている。しかし、平成26年度補正予算で22億円、平成27年度当初で6億円の計28億円である。本市の当初計画分だけでも5億8千万円程度の補助金希望となっている。中心市街地再興戦略事業費補助金等の予算総額の拡大をお願いしたい。

石破茂氏は、「地方創生先行型交付金に関しては、倉吉ならではの面での内容とすることが必要。中心市街地再興戦略事業費補助金等については、経済産業省へも要望内容を伝える」という言葉をいただいた。

次に、同じく鳥取県選出の衆議院議員であり、内閣府副大臣 赤沢亮正氏を訪ねた。公務多忙の中、我々のために貴重な時間を割いて対応していただいた。日頃からの本市の支援に対しお礼を述べるとともに、今回の要望事項を含め、さらなるご支援をお願いした。

ご多忙の中、我々の要望活動等に対して時間を取って対応していただいた石破茂大臣、赤沢亮正副大臣に感謝いたします。



(2) 石川県金沢市 4/17(金) 13:30~17:00

「学生のまち・金沢の推進」「円形校舎跡の活用」について北陸新幹線「かがやき」で視察地金沢へ。東京ー金沢2時間28分、ビジネス・観光面において多大な効果が期待されている。揺れもなく、快適な車内。座席前にある無料の雑誌「西Navi」(JR西日本)に目を通す。10ページの誌面の中に倉吉に関する記事を2つも発見!!「西日本の歩きたい桜並木」15カ所の中に打吹公園が、「名探偵コナン鳥取ミステリーツアー開催決定!」に白壁土蔵群の写真が載っている。沢山の乗客に倉吉をPRできる。魅力あるまちとじてもらえるようもっと上手にPRして集客につなげたいものである。



「学生のまち・金沢の推進」について

昼食後、タクシーにて「金沢学生のまち市民交流館」へ。この交流館は学生と市民の交流の場、まちづくり活動に関する情報交換や学習の場、協働のまちづくり活動の場として、学生・市民問わず誰でも利用できる。建物は、大正5年に建設され、当時の姿を残したまま改修されたもので、金沢市指定保存建造物にも指定されている。隣接する交流ホールは、旧料亭かわ新の大広間の部材を用いて新設された建物で、最大130名収容で、多目的利用が可能となっている。



交流館で、金沢市市民局市民協働推進課担当課長補佐 柿本 紀希氏よりプレゼンを含めて説明を受ける。金沢市及び近郊には、18の大学・短大・高等専門学校と29の専門学校が集積し、学生数約35000人、教職員を含めると約40000人となる。



「学生のまち」とは、学生がまちを学びの場または交流の場としながら、まちなかに集い、市民と親しく交流し、及び地域における活動等に取り組む。市民、町会等、高等教育機関、事業者及び市が一体となって学生の地域における生活、自主的な活動等を支援することで、互いの関係が深まり、にぎわいと活力が創出されるまちである。



このことを具体的な形で示したものが、「学生のまち推進条例」である。この条例は、平成22年4月から施行され、総則、基本的な施策、支援、推進体制等からなる。

学生のまちをすすめる施策としては、「金沢学生のまち市民交流館」、「金沢学生のまち推進週間の設定(まちなか学生まつりの開催等)」、「学生等雪かきボランティア(12月~2月、16組の学生グループが活動)」、「金沢まちづくり学生会議(中心市街地の活性化への取り組み)」、「協働のまちづくりチャレンジ事業(学生まちづくり部門)」、「学生サポーター企業登録制度(学生と企業との相互交流の機会を広げる)」等である。

倉吉市においても平成27年4月に鳥取看護大学が開学、4年後には鳥取短期大学とあわせて約1000人の学生・教職員が通うキャンパスとなる。また、市内にある専門学校、高等学校等、少子高齢化の中にあって、倉吉駅周辺を中心として若者の割合の多い地区もある。市と鳥取短期大学との包括協定も含め、まちづくりをすすめる上で大きな力となり得る。今後の倉吉のまちづくりの参考となる視点・取り組みがいくつかあった。

学校法人金城学園遊学館高校の方との待ち合わせ場所である金沢市役所へ。約300メートル程の距離であるが、不案内な場所のため通行人に道を尋ねる。3組に声をかけたが

いずれも「わからない」とのこと、われわれ同様市外からの客らしい。とにかく、金沢は現在観光客等で賑わっている。

「円形校舎跡の活用」について

遊学館高校の関係者、学校法人金城学園副理事長 加藤博氏他と落ち合う。多少時間的な余裕があるということで、兼六園（江戸時代の代表的な林泉回遊式大名庭園、特別名勝）及び金沢21世紀美術館（誰もがいつでも立ち寄ることが出来る、まちに開かれた公園のような美術館がコンセプト）を案内を受けながら視察。いずれも、金沢を代表する場所であり、大勢の人で賑わっていた。金沢21世紀美術館は、まちなか美術館として市街地にある美術館として参考となる点があった。

用意していただいた車で遊学館高校へ。市役所から約500メートルほどの町中の高校である。

なぜ、遊学館高校が視察先になったか。それには、2つの理由がある。一つは、円形校舎の利活用（跡地利用）についてである。本市においても、旧明倫小学校の除却、利活用が話題となっている。同じく円形（円筒）校舎のあった遊学館高校の現地視察、状況をお聞きする目的である。一つは、倉吉市とのつながりである。実は、遊学館高校の前身である「金城遊学館」の創設者である加藤廣吉氏は倉吉市の出身である。詳細については、後記とするが、その縁もあり、学校法人金城学園（遊学館高校舎）と倉吉市の関係者とのご縁が続いている。

遊学館高校に到着、学校法人金城学園遊学館高等学校校長 竹田剛氏、同事務室長 松本雅夫氏、同生徒指導部長 嶋田司氏らの出迎えを受ける。挨拶を済ませたあと、学校の概要及び円筒校舎に関して説明を受ける。

遊学館高校は、明治37年、金城遊学館として創設され、女子教育を中心として実践してきた。平成8年に遊学館高校に名称変更し、男女共学となった。金沢市内の中心部に位置し、生徒数は1300名余、特別進学コース、一般進学コース、金城大学コースの3コースを設定し、一人一人の進路にあわせた、きめ細かい学習指導を行っている。卓球部・駅伝競走部・硬式野球部・バントワリング部等の活動が盛んで、日本海駅伝等にも参加している。

円筒（円形）校舎は、市内の中心部に位置する敷地を有効に利用するために、昭和28年に着工、鉄筋コンクリート3階建てとして造られた。しかし、長年の使用によるコンクリート等の劣化、耐震性・安全性などの問題もあり、関係者間で円筒校舎の除去、利活用について検討がなされた。

ポイントは、安全性の確保、シンボルとしての円筒校舎の利活用、生徒にとって必要な施設は何かということであった。その結果、一番必要な施設は駐輪場（自転車通学者が多いが駐輪スペースが絶対的に不足している）であった。また、安全性の確保という点では、耐震補強という方法では費用面も含めて難しいという結論であった。そこで、円筒校舎の除去、新たに円筒形の1階建て、屋上は多目的スペースという形で利活用することとなった。1階は自転車の駐輪場、屋上は部活動や集会などでの活用がなされている。本市の円形校舎の除去、利活用にあたっては、新しい視点として参考となる事例であった。



(3) 石川県白山市 4/18(土) 10:00~12:00

金城学園で用意していただいた車で白山市へ。途中、近江町市場の視察。近江町市場の始まりは1721年。以来、約290年、金沢の食文化を支える「市民の台所」として親しまれている。平成21年4月に「近江町いちば館」が誕生。日曜営業も始まり、新たな賑わいを見せている。

昨日の視察の様子が、地元紙の「北國新聞」に載っている。(右の記事) 本日も同様に取材の予定がある。

金城学園と倉吉市の関係について若干説明を加える。「遊学の大地から(金城学園創立100周年記念誌)」によると、金城学園の父、加藤廣吉は1866年倉吉市に生まれた。東京の陸軍戸山学校体操科などを経て、金沢で尋常師範学校体操科教師として教育者の道を志す。のちに、加藤せむと結婚し加藤家の養子となる。廣吉はせむとともに女子の中等教育機関の創設をめざし、私塾・金城遊学館を開校させた。加藤家には倉吉から呼び寄せた廣吉の両親、せむの実母、6人の子どもたちもいて生活は困窮していた。念願だった女学校設立の県知事認可が下りた翌年、廣吉は病のため息を引き取る。享年41。

廣吉の死後、加藤せむ、その子二郎、孫の晃、曾孫真一などの努力もあり、現在では、金城大学、金城大学短期大学部、遊学館高等学校、幼稚園など園児、生徒、学生総数3000名を超える学校法人となっている。

1983年、金城学園の歴史をたどった北國新聞連載の取材で廣吉の両親の墓所が確認された。墓地の整理で墓石が処分されることを知った金城学園では、白山市の金城大学に墓石を2013年倉吉市から移設、隣接して学園創世祈念碑「遊学の丘」も建立し、開学の精神を後世に伝えるよすがとした。

車で約30分、金城大学笠間キャンパスに到着。金城大学副学長 加納宏志氏、同事務局次長 久野光広氏らの出迎えを受ける。後に、金城学園理事長 加藤真一氏ともお会いする。大学は休日であったが、学内を案内していただく。社会福祉学部、医療健康学部、看護学部(平成27年4月開学：松任キャンパス)の3学部を有し、笠間キャンパスには、短期大学部も設置されている。

学園創世祈念碑「遊学の丘」にも訪れ、加藤廣吉やせむ夫婦の開学に向けた労苦や廣吉氏の両親等へ思いをはせた。100年以上の時間が経ち、また、石川県と鳥取県という離れた土地にありながら、現在も交流があることのつながりに感動する。これを機会として、今後とも有意義な関わりの続くことを約束して分かれた。

2. 視察・調査を終えて

「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。われわれの要望活動に対し時間を割き対応していただいた関係者の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂いた学校法人金城学園の関係者の皆様本当にありがとうございました。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

